

とやま く  
富山に暮らすネズミたち

清水 海渡

## 1. はじめに

みなさんは「ネズミ」を知っていますか?多くの方が、「ネズミといえばこの姿」と、思い浮かべることが出来ると思います。でも、生きた野生の姿を見たことがある人はあまり多くないかもしれません。ネズミは古くから身近な存在で、「耳が大きい」「つぶらな目」「小さい」「かわいい」などの特徴があり、絵本の題材や身近なキャラクターのモチーフになっています。ペットとしても人気の高いハムスターやモルモットもネズミの仲間です。一方で、「汚い」「気持ち悪い」「怖い」「電線をかじる」「畑を荒らす」など、あまり良くない印象を持っている方も多いかもかもしれません。

私は高校生の頃から、野山に暮らすネズミについて調査をしてきました。知れば知るほど面白く、大好きな動物です。今回はそんなネズミたちの魅力と、私が出会ってきたネズミたちについて紹介します。

## 1.1. ネズミってどんな動物?

ネズミは、私たちと同じほ乳類の仲間です。大きな前歯(門歯)が上下のあごに1対(2本ずつ)ある「齧歯目」という仲間分類されます(図1)。この大きな前歯は、一生伸び続けます。堅いものをかじって歯を削ることで、一定の長さを保っています。



図1 門歯の大きなネズミの頭骨(クマネズミ)。

す。そうしないと伸び続けた前歯で、あごの骨がずれて物を食べることができなくなってしまいます。主に堅い木の実や植物の茎、根などの植物質を食料としています。また、ごく少数ですが、魚や昆虫を主食とする種もいます。

ネズミ以外にもリス、ヤマネ、ヤマアラシなどは同じ齧歯目の仲間です。

## 1.2. ネズミの仲間は世界に1,500種いる!

私たちがヒトを含めたほ乳類は世界中で約6,500種が確認されています(2023年1月現在)。その中の約2,300種は齧歯目に属し、いわゆる「ネズミ」とよばれるネズミ上科というグループに分類されるのは約1,500種となっています。世界の哺乳類の約4分の1がネズミの仲間です。

## 1.3. ネズミの世界一

ネズミの仲間は、元々南極大陸とニュージーランド、一部の火山島をのぞく、世界中に暮らしていました。ところが、人の移動と共に広がり、現在は多くの火山島を含め南極、ニュージーランドでも生息が確認されています。

世界で一番大きなネズミは、動物園の人気者カピバラです。和名(日本名)はオニテンジクネズミといます。大人になると全長は120cm以上、体重は50kg以上にもなります。南米のアマゾン川流域原産で、熱帯雨林や湿原などの水場を好んで生活しています。富山市ファミリーパークでも飼育されています。

一方、世界で一番小さなネズミは、アフリカチビネズミという種で、全長は約6cm、体重は約5gとヒトの指にのるほどの大きさしかありません。アフリカ南部にある高い山の限られた地域の草原に暮らしています。たまにペットショップなどでも販売されていることがあるので見たことがある方もいるかもしれません。

#### 1.4. 田舎のネズミは野ネズミ、町のネズミは家ネズミ

イソップ童話の中に「田舎のネズミと町のネズミ」というお話があります。畑や草むらで暮らす田舎のネズミと町中の人家で暮らす町のネズミが、お互いに自分の住んでいる場所を自慢し、うらやましくなったので、行ってみたけれど自分には合わず、互いに元いた場所に戻るといってお話です。実際に、ネズミは種類によって好む環境が違います。この違いから、特に人の家屋などを好むハツカネズミ、ドブネズミ、クマネズミの3種類を“家ネズミ”と呼び、それ以外の野山にいるネズミを“野ネズミ”と区別して呼んでいます。

#### 1.5. 大きな家ネズミと小さな家ネズミ

家ネズミの中でもドブネズミとクマネズミは人家、ビルなどの建築物や下水の発達と共に増えたネズミです。

ドブネズミはその名のとおり、湿った環境を好み、地中に穴を掘って巣穴を作り、軒下などにすみつきます。雑食性で木の実や花などの植物はもちろん、鳥のヒナや貝、昆虫などの小動物も好んで食べます。身体も大きく、最大で全長30cm以上、体重400g以上にもなります。ちなみにドブネズミを長年かけて飼育できる品種に改良したのがペットショップなどでもおなじみの“ラット”です。

クマネズミは、ドブネズミの近縁種ですが、一回り小さく、高いところへ登るのが得意で、屋根裏やビルなどに好んですみつきます。本来は森林の樹木を上り木の実などを主食にしていますが、東京のビル群などにも多く暮らしています。電線を渡ってビルからビルへと渡ることもあります。雑居ビルが立ちならぶ都市部では電源コードをかじって漏電を引き起こし、火災の原因になることもあります。

残る1種類はハツカネズミです。名前の由来は妊娠期間、成熟期間が共に約20日間であることです。前の2種に比べるととても小さく、全長10cm、体重20gほどのネズミです。コメや麦などの穀物を好んで食べるので、稲作の伝播と共に世界中に広がったと考えられています。去年の2月、私の家に野生のハツカネズミが侵入しました(図2)。帰宅したときに荷物の下へ逃げていく



図2 自宅で捕獲したハツカネズミ。

のが見えたので、罠を設置して捕獲しました。今、私が住んでいるアパートは田んぼに隣接しているので、そこから来たものと思われます。

#### 1.6. 野山に暮らす野ネズミ

先ほど紹介した3種以外のネズミは主に野山で暮らしており、総称して野ネズミとよびます。国内には17種の野ネズミが暮らしています(表1)。本州には6種が暮らしており、富山県ではその全種がいます。6種以外は北海道や琉球列島の沖縄、奄美大島、徳之島といった特定の地域や島々にだけ暮らす種です。また、17種のうち11種は世界中で日本だけに暮らす固有種です。そんなネズミたちを自分の目で観察することが私のライフワークの一つになっています。

表1 日本産ネズミ科一覧。

和名	学名	富山県	生息地域
ヒメヤチネズミ	<i>Myodes rutilus</i>		北海道
タイリクヤチネズミ	<i>Myodes rufocanus</i>		北海道
ムクゲネズミ	<i>Myodes rex</i>		北海道
ヤチネズミ	<i>Eothenomys anderson</i>	○	本州
ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	○	本州・四国・九州
スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii</i>	○	本州・四国・九州
ハントウアカネズミ	<i>Apodemus peninsulae</i>		北海道
アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	○	本州・四国・九州
ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	○	本州・四国・九州
セスジネズミ	<i>Apodemus agrarius</i>		尖閣諸島
カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	○	本州
ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>	○	日本全域
オキナワハツカネズミ	<i>Mus caroli</i>		沖縄本島
オキナワトゲネズミ	<i>Tokudaia muenninki</i>		沖縄本島
アマミトゲネズミ	<i>Tokudaia osimensis</i>		奄美大島
トクノシマトゲネズミ	<i>Tokudaia tokunoshimensis</i>		徳之島
ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	○	日本全域
クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>	○	日本全域
ナンヨウネズミ	<i>Rattus exulans</i>		宮古島
ケナガネズミ	<i>Diplothrix legata</i>		琉球列島

## 2. ネズミとの出会い

私が野山に暮らすネズミたちと出会ったのは高校生の時でした。当時、クラブ活動で東京都の秘境と言われる檜原村の山にすむネズミやモグラを調査し始めたのがきっかけでした。調査地は三頭山という山とその周辺地域で、東京都の中でも標高1,000m以上、数少ないブナとミズナラの林が残っている自然豊かな環境でした。その森にどんな種のネズミが暮らしているのか、季節や年ごとに違いはあるのか、などをテーマとして日々、先生や友人達とネズミを捕獲し、観察していました。高校生から始めた檜原村でのネズミ調査は、大学に進学しても続けました。そして、社会人になってからも、知り合いの研究者の捕獲調査の手伝いで檜原村はもちろんのこと、神奈川県かながわけんの丹沢地域や静岡県しずおかけん富士宮市、山梨県やまなしけん北杜市、時には北海道ほくちようさの石狩川でも捕獲調査をしていました(図3)。



図3 北海道で捕まえたエゾヤチネズミ。

### 2.1. ネズミを捕まえる罠

その場所にどんなネズミがすんでいるのかを調べるには、捕まえるのが最も確実な方法です。そのためにはネズミ用の罠を使います。罠にはいくつか種類があります。アニメなどに登場するチーズを餌にして、バチンッと挟んで捕まえる罠(図4-1)は、「ハジキ罠」と呼ばれるもので、捕まったネズミは死んでしまいます。駆除目的であればこれでも良いのですが、研究用には生きてまま捕獲できる箱形の罠「シャーマン式ライブトラップ」を使います(図4-2)。この罠は片方かたほうに入り口があり、ネズミが中に入ってふみ板を踏むとストッパーが外れて入り口が

閉まり、閉じ込めます。餌を中に少し入れて誘引しますが、餌の種類には研究者によって流儀りゅうぎがあり、市販のお菓子、オートミール、ピーナッツ、ピーナッツバター、きな粉などがあります。私はオートミールに市販のお菓子を混ぜたものをつかっています。

次に重要なのは「罠をどこに置くか」ということです。このときに大事なものはネズミの気持ちになって考えることです。森の中や草原で、どんな場所をネズミが通っているのか、天敵から見えないかなどを考えます。考えながら森を歩くと、斜面しゃめんに生えた樹木の根あたりにネズミが通っている穴あなを見つけることができます(図5)。その穴の出入り口付近にネズミが警戒せずに入ってくれるように罠わなを設置せつちします(図6)。

ネズミの仲間きほんてきは基本的に夜行性やこうせいです。罠わなは一晩設置し、次の日の朝方に回収かいしゅうします。春から秋の調査ではネズミは、回収時まで生きていますが、真冬だと凍死してしまうため、数時間毎に罠わなを見回る必要があります。

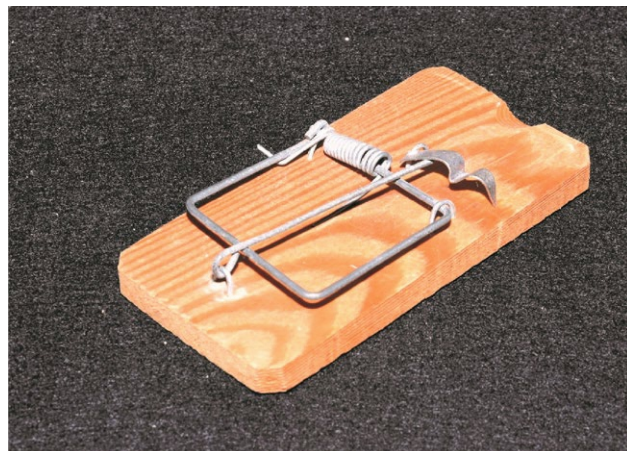


図4-1 ハジキ罠。



図4-2 シャーマン式ライブトラップ。



図5 罠設置の様子。



図6 ネズミ用の罠を設置する筆者。

### 3. 富山県でネズミの調査をはじめ

仕事の合間に関東でネズミなどの動物を調べていた私に転機が訪れます。2019年に富山市科学博物館の学芸員として就職することになったのです。富山に来て1年半がたった頃、富山県でもネズミを調査しようと思い立ちました。

#### 3.1. 過去の記録

まずは、富山県で報告されているネズミの記録を調べたところ、県内では1950年代から畑の被害が急増したため、農業試験場を中心として平地のネズミについての研究が盛んに行われていました。また、立山の自然環境を調べるため1960年代から80年代にかけて、富山大学を中心に標高2,000 m以上の高山地域での調査も盛んに行われていました。その結果、本州に暮らすネズミ9種は全て富山県でも確認されていました。一方で、平地と高山の間の地域での調査記録は、有峰地域だけでした。そして、記録の多くは、約20～40年前であり、近年はあまり調査されていないことわかりました。有峰地域は40年前と25年前に自然環境総合調査が実施され、モグラ類やリス類などを含めると実に17種類もの小型の哺乳類が確認されており、そのうちネズミは6種類でした。しかし、その後は、特定の種類や限られた場所での報告はあるものの、総合的なものではありませんでした。そこでまずは有峰地域の現在の状況を調べてみよう！と取りかかりました。

#### 3.2. 調査の準備

前述した家ネズミ3種以外のネズミを捕獲する場合は、都道府県ごとに捕獲の許可を申請しなくてはなりません。日本ではネズミも含めた野生動物の捕獲は鳥獣保護法により規制されています。そこでまずは富山県自然保護課へ調査に伴う許可申請をしました。2021年4月、無事に富山県から許可証を発行していただきました。

#### 3.3. 有峰ってどんな場所!?

有峰は富山市の南東部に位置する、有峰湖を中心とした山間の地域です(図7)。有峰湖は満水位標高1,088 m、総貯水量2億m<sup>3</sup>、1959年に完成した人工ダム湖です。湖周辺にはブナ・ミズナラ林、カラマツ林、スギ植林などの林が広がり、そこにはたくさんの生き物がすんでいます。また有峰湖へと続く林道は毎年、6月1日頃に開通し、11月初旬



図7 有峰湖の様子。

に閉鎖し、11月中旬から5月までは、積雪が多く通行禁止になっています。2021年の調査では6月1日から11月6日までの期間に実施しました。

#### 4. 有峰で見つけたネズミ

調査の結果、野ネズミであるアカネズミ、ヒメネズミ、スミスネズミ、ヤチネズミの4種類(すべて日本固有種)を見つけることができました。各種類について紹介します。

##### 4.1. 日本で最も繁栄したアカネズミ

北海道、本州、四国、九州とその周辺の島々に暮らしています。お腹側は白く、背面は赤茶色の毛で覆われ、名前の由来になっています(図8)。富山県内でも海岸から高山まで様々な環境にすんでいます。地上を走りまわることを得意とし、後ろ足が大きいネズミです。また、眼がとても大きいのも特徴です。この調査で最も多くの個体数を確認しました。



図8 アカネズミ。

##### 4.2. 木登りが得意なヒメネズミ

アカネズミと同じく、北海道、本州、四国、九州とその周辺の島々に暮らしています。アカネズミに比べて、森林に好んで暮らし、一回り体が小さいのが特徴です(図9)。木登りが得意で、バランスを取るために体に対して尾が長く、後ろ足は小さくなっています。樹上にある木の実をよく食べ、地面を徘徊するアカネズミとすみ分けています。今回の調査では2番目に多く見付き、主にカラマツ林で確認されました。

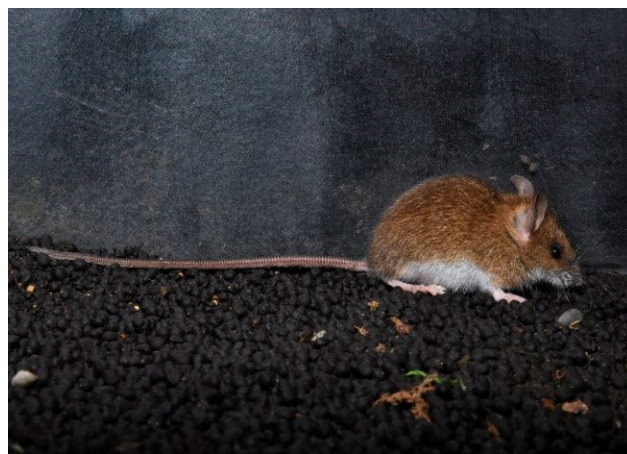


図9 ヒメネズミ。

##### 4.3. 腐葉土層にすむスミスネズミ

本州の新潟～福島より南側、四国、九州で暮らしています。山林の落ち葉などがたくさんたまっている場所や岩場の隙間などを好みます。木の実だけでなく植物の根なども食べる草食のネズミです。名前は、1904年にこのネズミを世界中で紹介したゴードン・スミスさんの名前に由来します。今回の調査では3番目に多く見付き、薄暗い林内の腐葉土がたまった場所でたくさん捕獲しました(図10)。



図10.スミスネズミ

##### 4.4. 40年ぶりに生息を確認したヤチネズミ

本州の東北と中部の山地、紀伊半島にのみ暮らしています。谷地形に暮らすことから「ヤチ(谷地)」の名前が付けました。今回の調査では2ヶ所で1頭ずつ捕獲したのみで、有峰地域では1981年の報告以来、実に40年ぶりの確認となりました。スミスネズミととても似ていますが、スミスネズミより



図11 ヤチネズミ。

お尾が長いことや耳が小さいこと、毛並みが異なることで識別します(図11)。

#### 4.5. ネズミ調査は続く・・・。

半年の調査で4種類のネズミが今も有峰で暮らしていることがわかりました。アカネズミ、ヒメネズミ、スミスネズミの3種は有峰地域のほぼ全域で確認しました。また、ヤチネズミは2ヶ所で各1頭でしたが場所は離れており、有峰湖周辺では広く生息している可能性があります。

まだやり残したこともあります。40年前の報告書の中には他にドブネズミとハタネズミという2種類のネズミがいます。ハタネズミは名前の通り畑を好むネズミで畑や草原に生息します。ドブネズミは家屋が好きな家ネズミの代表種です。今から約60年前の1961年に有峰周辺でネズミを調査した望月正己氏によれば、当時、有峰湖周辺は観光に関連する方々が住み、畑がたくさんあったと記録を残しています。ドブネズミもハタネズミも当時あった住居や畑に生息し、それが消失したことで、姿を消した可能性が考えられます。ただ、調査を始めてまだ1年なのでこの2種のネズミたちは、今回たまたま捕まえることが出来なかった可能性もあります。環境が変わったことで有峰からいなくなってしまうのかを知るためにも、もうしばらく有峰に通って調べる必要があります。

#### 5. 富山県内で見つきたいネズミ「カヤネズミ」

最後に、私が富山でぜひ見つきたいネズミを紹介

します。日本で一番小さなネズミ、カヤネズミです(図12)。ススキやカヤなどの植物がたくさん生える草原に暮らし、こういった草を編み込んでソフトボールくらいの丸い球状の巣を作ることのできる有名なネズミです。大きさは大人の親指より少し大きいくらいで、体重も約6gでとても小さく軽いネズミです。

富山県内では神通川の河川敷などで過去に確認されていましたが、2003年以来、19年間記録がありません。カヤネズミはとても小さく、夜行性なので見つけるのは困難ですが、写真のように巣が目立つので巣を見つけることができれば、生息確認ができます。散歩中などにカヤネズミの巣(図13)を見かけた方はぜひ私にご一報ください。

富山県では、本州に暮らす全てのネズミが過去の調査から記録されています。それは、標高0mの富山湾から標高3,000mの高山帯までに多様な環境があるからだと思います。現在もその多様な環境が続いているのか、変化しているのかをネズミをとおして調べていきたいと思っています。



図12 カヤネズミ。



図13 カヤネズミの巣(東京都あきる野市)。